

「人々の防災意識を高めることが第一歩」

鳥取県 鳥取市立南中学校 1年 落合 隼おちあい はやと

平成21年8月9日。僕が3才だった時兵庫県西部にある佐用町では台風第9号の集中豪雨で人的被害をはじめ浸水や土砂災害によって、死者行方不明者を合わせて20人もの尊い命が奪われてしまいました。僕はまだ3才だったので当時のことは、全く知りませんでした。でもあるきっかけで、この災害について知ろうと思いました。

この災害から5年がたった僕が小学4年生だった時の夏、ある用事で佐用町の近くに行った時、佐用駅にある1枚のポスターが目にとまりました。そこに書いてあったのが、この佐用での豪雨災害のことでした。それまで、地しんや津波などの災害をテレビを通してでしか見たことがなかったので、雨での災害を初めて知り、自分の住んでいる近くの町でも大きな災害が起きているということに驚愕しました。それでこの災害についてもっと知りたいと思い、その3年後の6年生になった時の夏に豪雨などの事を知るために佐用町に行き、この災害は豪雨災害だけでなく土砂災害でも被害があった事を、町役場の人に教えていただきました。そして特に大規模な土砂くずれがあった、町の北部にある石井地区に行きました。車で移動している時も、川や山の被害の痕跡があり、災害から7年たったこの時も被害の甚大さを直で体感しました。

そして石井地区に着き山を見ると目を疑うような光景がありました。なんと、山の頂上から下の川の所まで滝のようにくずれた痕跡があり、コンクリートでかためてあったからです。役場の方から頂いた本で災害発生当時の写真を見てみると大きな木が何本も山から落ちてきて山の下にある道路につき重なるようになっていました。地元の方の話によるとこの時は奇跡的に、土砂が川までいかなかったけれども、もしもこの土砂が川まで到達していたら、それが大きなダムとなって川の水によって集落が多大な被害にあっていたかもしれないと聞き、山や土砂災害に恐怖を感じました。またいつも穏やかな山もいつこのような猛威をふるうか分からないので、家の近くの山も油断できないと思いました。

この土砂災害では土砂くずれによって、道路が通行止めとなり孤立したり、電気の供給がストップしたり上下水道が使用できない状態に陥ったりするなど、土砂災害がもたらす生活への影響もあるということが分かりました。もしも自分達が同じ状況に置かれた時、困らないように日頃から準備をしたり、ハザードマップを有効に活用したり、どこに逃げるか、避難ルートの確認、事前に家族で話し合うなどをしたりするようにし、積極的に地区の防災訓練に参加したいと思いました。

あと自分の命は自分で守るという気持ちを忘れず、もし災害が起きても、家族の中で冷静に判断し「僕が家族を守る」くらいの気持ちで行動していきます。さらには、みんなで地域を支えていけるような関係を地域の中で築いていきたいと思います。そのためには、日常的にある夏祭りや運動会、あいさつで地域とつながり合うのが第一歩だと思っています。

被害のあった佐用町も、役場の人によると被害にあう前の、住民の方々の防災意識は薄かったようです。ですが、あの日の教訓を忘れずに防災に取り組んでいる中で大切にしているのは、やはり地域とのつながりだそうです。僕が佐用町の防災の取り組みで一番良いなと思ったのは、「気づきマップ」です。この気づきマップは、佐用町のハザードマップにあり、普通のハザードマップだけでなく1枚の白紙のページが入っていてここに、自分の地域のハザードマップを自分で書くというものです。これで、地域の人達などと話し合うことで、自然とつながりが生まれてきて、自分で書くことによって「自分の地域は自分で守る」と防災意識も高まります。その地域は、やはりその地域に住んでいる人の方がくわしく正確なマップができるのでさらに防災の役に立ちます。それで、この「気づきマップ」を広げていきたいと思いました。

最後に、僕がこの佐用町での豪雨(兵庫県西・北部豪雨)について調べて学んだ事を多くの人に知ってもらい、この豪雨からの教訓を忘れずに、この事を通して多くの人々の防災への意識が変わり、土砂災害防止のためへの一歩となれば良いと思います。